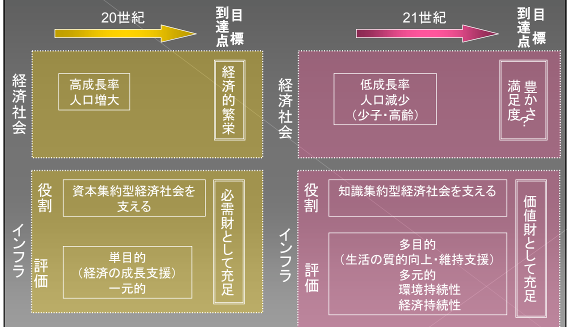
地域戦略から見た、大学間の国際・地域内連携と必要な仕掛け

名古屋大学大学院
環境学研究科長
林　良嗣

経済社会の変化と社会インフラの役割・評価



地域の活力と戦略

- 20世紀型（資本集約型）
  - 場：工場
  - インフラ：道路
  - コンテンツ：工業製品
- 21世紀型（知識集約型）
  - 場：大学
  - インフラ：知識交流インフラ
  - コンテンツ：学会事務局、セミナー活動、出版、
    放送、インターネット

国際連携/地域内連携

① 国際学会

② 芸術・デザイン活動

③ 大学国際コンソーシアム

④ 必要な仕掛け（ハード）

⑤ 必要な仕掛け（ソフト）

① 国際学会

- 世界交通学会(例)
  - 63ケ国、1,537名
  - 学会事務局の重要性
    - 論文ハンドリング、60ヶ国
    - ジャーナル編集、20ヶ国
    - 大会オーガナイズ
    - HP管理
    - 学会論文賞選考委員会
    - 分科会活動 →CUTE（Urban Transport and The Environment, Elsevier)
    - 毎年の理事会/学術委員会

② 芸術・デザイン活動

- Leeds大学（例）
  - ３年に一度の国際ピアノコンクール
  - 1月間100人がホームステイ（毎日ピアノ練習）
  - Ms.Watermanを訪ねた
- 名古屋地域、名古屋の大学
  - 愛知芸術文化センター
  - 国際デザインセンター
  - 大学博物館・講堂、市民に開放・交流

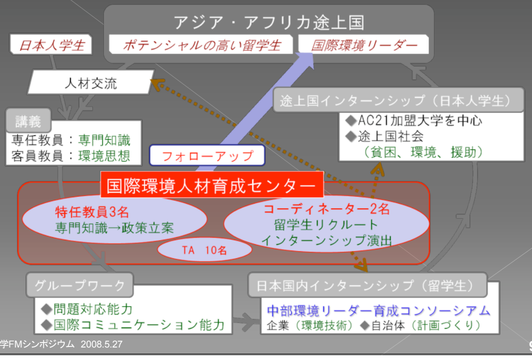
③ 大学国際コンソーシアム

- AC21（大学allianceの時代）
  - 隔年総会
  - 学生世界会議（20歳の学生が集って未来を語り合う）
  - 日本、名古屋の大きな財産
  - 民間（企業・市民・マスコミ）の参画
- 新ソナタ方式
  - 1.導入部(P)：企画・趣旨→海外有力大学→リクルート
  - 2.展開部(D)：時宜にかなった具体的なプロジェクトを企画・展開
  - 3.永続部(C,A)：時代性からみた評価と時代を超えた継続性

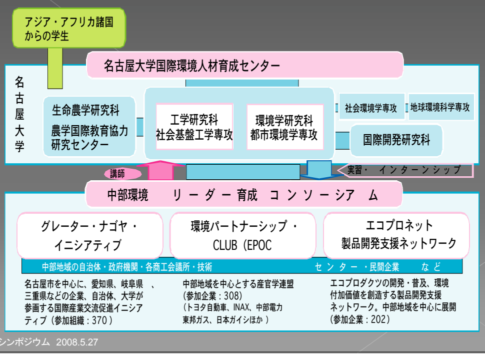
誰の国際化か？(環境学研究科の試み)

- 研究者
  - 放っておいてもやる
  - ただし、情報を集約し国際多重ネットワーク化
- 教員
  - 外国人教員が極端に少ない
- 学生・院生
  - 直接、超一流の研究者、思想家に触れる（フォン・ワイツゼッカー教授、デュール教授等）
  - 学生・院生の海外滞在派遣
  - 単位互換、ダブルディグリー等
- 市民
  - 国際交流の多彩な場（万博、大学と市民との交流）

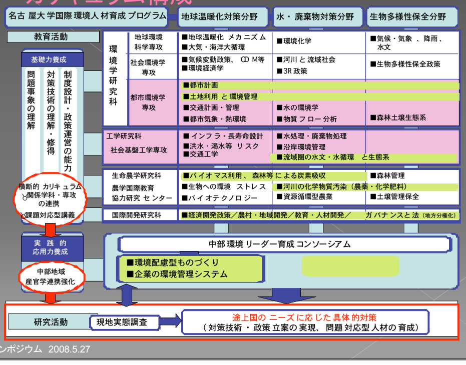
アジア･アフリカ人材育成プログラム
～コンセプト～



アジア･アフリカ人材育成プログラム
～実施体制～



アジア･アフリカ人材育成プログラム
～カリキュラム構成～



地域の活力と戦略

- 20世紀型（資本集約型）
  - 場：工場
  - インフラ：道路
  - コンテンツ：工業製品
- 21世紀型（知識集約型）
  - 場：大学
  - インフラ：知識交流インフラ
  - コンテンツ：学会事務局、セミナー活動、出版、

放送、インターネット

④ 必要な仕掛け（ハード）
日本の大学に欠けているもの
～研究者、学生、市民の融合した知的国際交流の場～

- 大学の国際化（中国＞＞日本）
  - 国の発展段階
  - 産業革命->工業化->所得上昇->国際化（逆転）
- 国際活動
  - 国際水準の教育（世界の有力学者に直接に触れる）
  - 国際共同研究（学学、産学）
  - 学術コンベンション
- 必要な施設
  - 総合コンベンション施設
  - ホテル
  - 貸研究所床（Cavendish Lab+周辺民間研究所）

⑤ 必要な仕掛け（ソフト）
～地域の大学のしなやかな連携・統合
(Collaboration, Integration)

- 理、工、医・人文・社会などの弱点を補い合う
- 事例（Best practices）
  - Manchester (UMIST/UM), Cardiff（UWIST/UW) vs London, Ox-bridge
- 名古屋 vs 東京,大阪, London, California
  北京、デリー
- 都市・地域の知識集合体としての評価
  - 名古屋は、他国に有用な価値を生み出し、共有できるか？